齋藤陽道

2021 9/17 金 ～ 2022 1/24 月

LUMBINI ART MUSEUM

存在。
生。死。
あわいの光。

るんびにい美術館 ― ギャラリー

開館時間＝午前10時～午後4時30分
閲覧料＝無料
休館日＝毎週火曜日・水曜日
年末年始休館日＝12月28日㈫～1月5日㈬
主催＝社会福祉法人光林会 るんびにい美術館
後援＝花巻市
助成＝岩手県福祉基金

お問い合わせ ― るんびにい美術館
〒025-0065 岩手県花巻市星が丘1丁目21-29
TEL：0198-22-5057
Mail：museum-lumbi@kourinkai-swc.or.jp
URL：https://www.kourinkai.net/museum-lumbi/

HARUMICHI SAITO Photography

写真展

るんびにい美術館
borderless art collection
https://www.kourinkai.net/museum-lumbi/

存在。生。

齋藤陽道
写真展

Harumichi Saito Photography

あわいの

沈。

沈黙が、怖かった。

かつて私は「聴者のように音声を聞いて話すことができないなら、お前に価値はない」という価値観に囚われていた。だから、ことばの絶える沈黙を過剰に恐れていた。

補聴器を通じてなだれ込むノイズを我慢して受け入れながら、寝る寸前まで補聴器をつけて、聴者のように話せて聞けるようにと自分を粉飾しながら、沈黙をどこまでも遠ざけようとした。

けれども、うわべを滑っていくばかりで一向にかみあわない音声の会話。今日はダメだったけれど明日になればきっと少しでもできるようになれると望みをかけて、一日を懸命にやりすごしてきた。しかし、いつまでたっても聴者のようにはなれなかった。

コミュニケーションの断絶が続く毎日。中学に入るころにはもう限界を迎えていた。

高校の進学先を考える時期になって、偶然、家の近くにあったろう学校を選んだ。逃げるように、ろう学校へ入学する。ここで手話と初めて出会う。聴者のようになれなくなるという思い込みで避けていた手話だった。

私は挨拶すらも困難なのだと思っていた。けれども手話であれば、日常会話が何の苦労もなくできた。補聴器を使う必要はまったくなかった。衝撃だった。目に見えて伝わる声が、私を救う。手話も言語なのだと心身ともに痛感する。そこから私の世界は一変した。

私を救ったことばは、深く恐れていた沈黙とともにあった。

沈黙が、変質していく。

会話の喜びを知ってから、私はいろんな存在と出会いたいと思った。たまたまそばにあった写真を手段にして、あらゆる他者と出会い続けてきた。

無数の出会いの中には、ひとことともことばを交わさなかったときもあった。しかし、交わしあったまなざしの回数や深さによって、お互いの存在を認めあうことができるのだと知る。ことばもなく、お互いの存在を了承しあう瞬間のたび、深い感動にいざなわれた。

ことばに依らない出会いを重ねるにつれて、沈黙はただ恐れるものではなくなった。冷たく寂しい孤独をもたらすばかりが沈黙ではなかった。

沈黙は、私と世界をつつんで
つなぐ豊穣であった。

世界が語りかけるかそけし沈黙の声を見つめるとき、空間がやわらかく振動する。振動は共鳴する。目の前の存在と、世界と、私が共鳴しあう。

それが、ことばをもたず、死と隣合わせにある弱さを抱えながらも、生命力を横溢させる幼子の見上げる世界の輝きなのだろう。その輝きを、私は求めてきた。

写真は、決して動かしようのない一瞬が凍結したものでありながら、「存在すること」の意味を、沈黙とともに深めてくれる可能性を含んでいる。この写真の沈黙に、私は一縷の望みを見てきた。

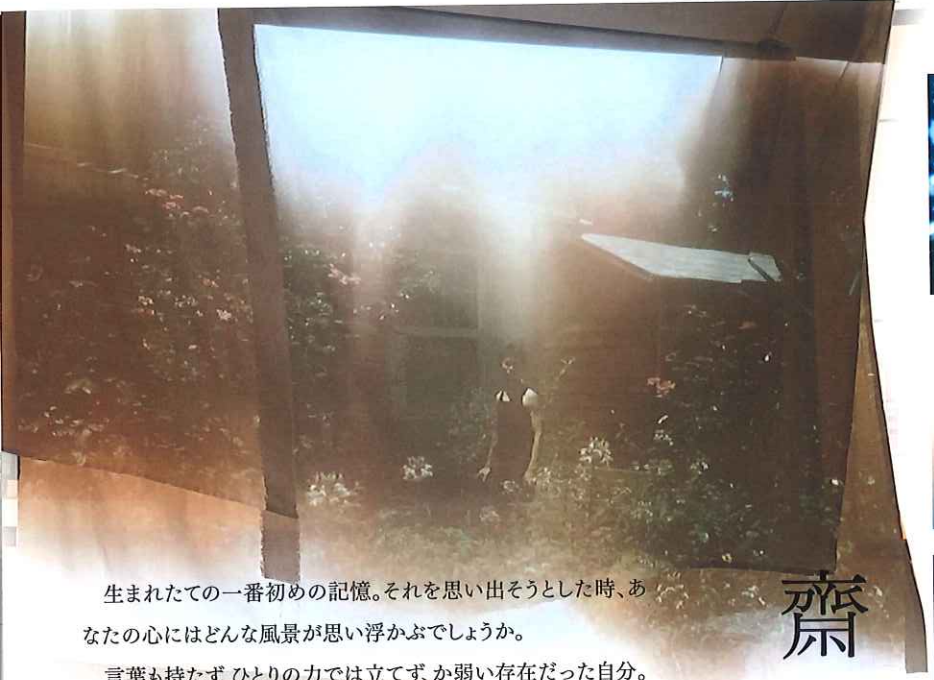
私が写真において見ているものは、存在の生命力だけ。

孤独や死をふくむ風景は、己の掌のなかにある宇宙にも気づかされることだろう。

沈黙とともに、くらがりを照らす光のごとき生命の可能性を広げていきたい。これまでも。これからも、ずっとそれだけなのだ。

2021年 8 月11日　　齋藤　陽道

沈。



齋藤陽道写真展

存在。生。死。あわいの光。

生まれたての一番初めの記憶。それを思い出そうとした時、あなたの心にはどんな風景が思い浮かぶでしょうか。

言葉も持たず、ひとりの力では立てず、か弱い存在だった自分。死と隣り合わせの弱さを持ちながら、この世界のあらゆる存在との出会いを一身に受け止めてきた自分。世界と一体だった自分。

「聾」という身体を持って生まれた齋藤陽道は、かつては聴者と同じにあることを求められ、補聴器から流れ込むノイズに必死に追いすがりながら、この世界との断絶に絶望していました。しかしろう学校への進学による手話との出会いから、深い沈黙によって繋がる世界を手にします。

沈黙の中で互いの存在を認め合う。沈黙の中で互いと世界とが共鳴しあう。それこそが、言葉を持たない幼子が見ている世界の輝きだったのではないか。齋藤は写真を撮ることを通して、そんな存在と命の根源にある意味を見つめ続けて来ました。

時に鋭い厳しさと、時にすべてを包み込むような柔らかさとが行き来する命の表情。私たちの言葉よりはるか前からあるこの世界の、あまりにも豊かな無限の彩り。そしてそれらの間(あわい)を繋ぐように、重なるように照らす光。

その光と対峙した時、自分も確かに光を携えながらここに存在しているということに私たちは気付けるかもしれません。

関連イベント

映画「うたのはじまり」上映会＆齋藤陽道トークイベント

"ろう"の写真家、齋藤陽道。20歳で補聴器を捨てカメラを持ち、「聞く」ことよりも「見る」ことを選んだ。彼にとっての写真は、自分の疑問と向き合う為の表現手段でもある。そんな彼の妻・盛山麻奈美も"ろう"の写真家である。そして彼女との間に息子を授かった。"聴者"だった。幼少期より対話の難しさや音楽教育への疑問にぶち当たり、「うた」を嫌いになってしまった彼が、自分の口からふとこぼれた子守歌をきっかけに、ある変化が訪れる。生後間もない息子の育児を通して、嫌いだった「うた」と出会うまでを切り取った記録。

©2020 hiroki kawai/SPACE SHOWER FILMS

〈日　時〉 2021年11月27日(土) 13:00～16:00
〈会　場〉 るんびにい美術館(岩手県花巻市星が丘1-21-29)
〈参加料〉 無料
〈定　員〉 30名

〈申込方法〉 氏名、住所、電話番号、人数を明記して下記いずれかの方法でお申込みください。

❶FAX:0198-29-5058
❷ハガキ:〒025-0065岩手県花巻市星が丘1-21-29
❸メール:museum-lumbi@kourinkai-swc.or.jp

〈備　考〉
●新型コロナウイルス感染状況推移に応じ、実施中止または内容変更の可能性がございます。変更が生じる際は、申込者へご連絡するとともにるんびにい美術館ホームページ(https://www.kourinkai.net/museum-lumbi/)へ掲載いたします。
●「うたのはじまり」の劇中には出産シーンがございます。映画倫理機構)の審査結果では【PG12】(※小学生には助言・指導が必要)という区分ではございますが、お子様や体調の優れない方、持病をお持ちの方には刺激の強い描写となっておりますので、ご鑑賞前には予め十分にご配慮、お気をつけ下さいますようにお願い申し上げます。

齋藤陽道 profile

1983年　東京都生まれ。写真家。都立石神井ろう学校卒業
2010年　第33回キヤノン写真新世紀優秀賞受賞
2013年　ワタリウム美術館にて大規模個展「宝箱」を開催
2015年　3331ArtsChiyodaで「なにものか」を開催
主な写真集・著作に「感動」「宝箱」「写訳 春と修羅」など
2018年　「声めぐり」「異なり記念日」を同時刊行
2019年11月30日～2020年1月26日まで開催された東京都写真美術館主催のグループ展「日本の新進作家 vol.16 至近距離の宇宙」に参加
2020年12月　写真集「感動、」(赤々舎)を発表

るんびにい美術館
borderless art collection

【入場無料】 開館 10:00－16:30　定休 毎週火曜日・水曜日
〒025-0065 岩手県花巻市星ヶ丘1-21-29
[ギャラリー専用] 電話0198-22-5057・FAX0198-29-5058
ホームページ、フェイスブックもぜひご覧ください。

るん♪カフェ Heart-Pit
〈るんびにい美術館内〉 11:00 オープン～16:00 ラストオーダー
[カフェ・ベーカリー専用] 電話0198-29-5395
《交通》
●東北自動車道花巻・花巻南インターから車で約10分
●JR東北本線 花巻駅からタクシーで約5分
●花巻駅から循環バス「ふくろう号」野田十文字バス停下車徒歩約3分
●東北新幹線新花巻駅からタクシーで約15分